

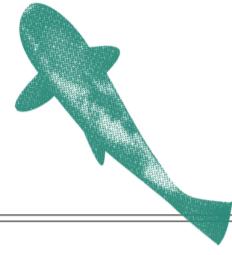
sento & neighborhood journal

YANAGIYU

せんとうとまち新聞

北区の記憶あつめ編 Vol.18

やなぎ湯



ABOUT

この事業は「北区政策提案協働事業」として、一般社団法人せんとうとまちが北区と協働し、令和5年度から3カ年計画で、北区の現役銭湯全22軒(令和7年現在)をめぐる。銭湯と周辺のまちの歴史や物語を聞き取り、広く共有することで、多世代間の交流を促し、地域のコミュニティ再生へとつなげることを目指しています。

CONTENTS やなぎ湯紹介/記憶地図/住民かく語りき



親子二人三脚で

先進性を取り入れながら

地域に愛される銭湯をつくる

優雅な庭を有してきた宮造り建築の思い出

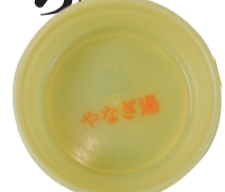
JR京浜東北線の東十条駅から徒歩5分のところにある「やなぎ湯」。3代目の坂本寧さんによると、開業は昭和20年代とのこと。「石川県富来町出身の母方の祖父が浅草の銭湯での丁稚奉公などを経て、開業したのが始まり。この場所での開業した経緯は定かではないが、かつて入口のところには大きな柳の木があったから、やなぎ湯という屋号になったと聞いている」と話す。ちなみに、寧さんの母親は赤羽の「お玉湯」と縁があり、お玉湯の名家(神田)で丁稚奉公をしていたこともあったそうだ。



かつて宮造り銭湯だった頃のやなぎ湯の番台。

今は1階にコインランドリーと駐車場、2階に銭湯、そして上層階はマンションという造りになっているが、かつては昔ながらの宮造り建築だったという。当時は庭があり、池では錦鯉が泳いでいたし、縁側では風呂上がりで涼んでいる人たちもいた。洗い場の仕切りなどの壁には九谷焼のタイルなどがあしらわれていて、優雅な雰囲気があった」と寧さんは振り返る。

もちろん、寧さんが幼少の頃はお客が引きも切らず、夜中の1〜2時頃まで



営業していた。「物心がついた頃には、もともと銭湯で働いていた母が毎日、夜遅くまで番台に立っていた。父は『経営者は2人いられない』という祖父の教えの下、外に働きに出たので、夕食は祖父母に準備してもらったことが多く、自然とおじいちゃん子、おばあちゃん子になっていた」そう。

そんなやなぎ湯が現在の造りになったのは2002年のこと。銭湯を継ぐ決心をした寧さんが試行錯誤の上で踏み切ったという。「当時は父が営んでいた建築会社で働きながら銭湯を手伝っていたが、母は『できれば銭湯を継いでほしい』と言っていた。もっとも、すでに銭湯は下火になっていた。いろいろな銭湯や健康ランドを視察したり、専門家にアドバイスをももらったりして、どうやって存続できるかを考えた」と寧さん。そして、最終的に「父が開業した建築会社を整理し、すべてのリソースをやなぎ湯に集中させて、炭酸泉やシルキーバス、ジェットバスなど多様なバリエーションの風呂とサウナを設けることにした」という。



高濃度人工炭酸泉の露天風呂。

広々としたロビーが地域の社交場

こうして現在の姿になったやなぎ湯は、広々とした

フロントと洗い場、そして美しいステンドグラスなどの意匠も相まって、宮造り建築の頃と同じようにどこにも優雅な雰囲気を感じている。「界限にこれだけ設備が整った新しい銭湯がなかったこともあって、建て替えてからはそれまであまり来なかった家族連れや若い人たちがたくさん来てくれるようになった。駐車場も設けたので、ちよつと離れたところから来てくれるお客さんも増えた」と寧さん。とりわけ広いフロントは老若男女に大人気で、もっぱら「地域の社交場」として機能している。「スポーツクラブに通っている子どもたちが来てくれて、風呂上がりにフロントで駄菓子を食べながら楽しそうにしゃべっている様子を見ると、こちらもうれしくなる」と寧さんは微笑む。



豊富な駄菓子のラインアップ。湯上がりにビールやおつまみも楽しめる。

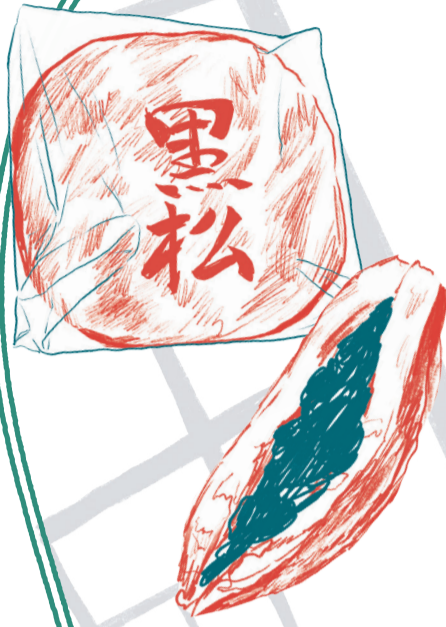
寧さんの地域愛や先進性は息子であり、4代目店主の卓也さんがしっかりと受け継ぎ、2022年にはサウナのリニューアルにも取り組んだという。「子どもの頃から銭湯で働きたいと漠然と思っていた、大学在学中に継ぐことを決意した。仕事にも慣れ、銭湯が天職だと思えるようになってきたので、これからは新しいことにチャレンジし続けたい」と卓也さんは力強く話す。親子二人三脚の挑戦はこれからも続いていきそう。

せんとう情報 SENTO DATA		<p>やなぎ湯 東京都北区東十条3-5-15 JR京浜東北線「東十条駅」から徒歩5分 14:30-23:00 定休日:月曜(祝日は翌日休)</p> <p>フロント 露天風呂 サウナ 炭酸泉 める湯の浴槽(41度以下) 荷物一時預かり ランドリー 駐車場(無料)</p>
-------------------	--	---

※「記憶地図」は、一部ご近所の皆さまの記憶や思い出を元に作成しています。事実と異なる表記があるかもしれませんが、ご了承ください。

記憶地図

● 現在も営業中 ● 閉店



黒松本舗 草月

1930年(昭和5年)創業の和菓子屋。東京三大どら焼きの一つである「黒松」が人気で、やなぎ湯の常連の中にもファンが多い。黒松の幹のような焼き模様が特徴的で、皮に黒糖とハチミツを使用し、コクのある甘さどふんわりした食感が堪らない逸品。



東十条駅

地藏坂下
児童遊園

地藏湯

明理会中央
総合病院

北区立東十条
区民センター

飛葉

東十条小学校

王子保健所通り

新田通

東十条商店街

アミューズ

飛葉

コーヒー
ルイ

花屋

鮮魚店

天ぷら三源

蕎麦店

蕎麦店

蕎麦店

蕎麦店

蕎麦店

蕎麦店

蕎麦店

蕎麦店

蕎麦店

蕎麦店

蕎麦店

蕎麦店

蕎麦店

蕎麦店

蕎麦店

蕎麦店

蕎麦店

蕎麦店

蕎麦店

蕎麦店

蕎麦店

蕎麦店

蕎麦店

蕎麦店

蕎麦店

蕎麦店

蕎麦店

蕎麦店

蕎麦店

蕎麦店

蕎麦店

蕎麦店



やなぎ湯

昭和20年代にこの地で開業した銭湯。名前の由来は当時近くに柳の木があったからだそう。右の写真は現在のビル型銭湯に建て替える前のやなぎ湯の様子。ペンキ絵のある宮造り銭湯だった。



提供:坂本寧

駄菓子屋

クリーニング
医院

まるが
満留賀

王子映画劇場

千石寿司

埼玉屋

荒物店

呑み処おく

ヤクルト

文房具店

わく井商店

ザ・ガーデンズ
東京王子

桜田通り

そば処

そば処

そば処

そば処

そば処

そば処

十条製紙と王子五丁目団地

1975年頃にやなぎ湯近くで撮影した風景。後ろに見える建設中の集合住宅は現在の王子五丁目団地。この辺りの場所をもとに「十条製紙」(現・日本製紙物流)があり、1976年にその敷地の東側半分が王子五丁目団地となった。2014年までは輸送のための貨物線が敷かれており、現在の「ザ・ガーデンズ東京王子」の位置には北王子駅や倉庫があったという。



提供:坂本寧

住民かく語りき

やなぎ湯周辺



Photo / Mari Okamoto

10月2日、記憶集めトークイベントが実施された。これはやなぎ湯周辺のかつての写真や地図を見ながら地域の記憶を掘り起こしていこうというものだ。常連をはじめとした参加者に思い思いに語り合ってもらった。

イベント当日は戦後間もない時期のやなぎ湯に縁がある人も参加した。曰く「父がもともと東十条小学校に通っていた。縁故疎開を経て、やなぎ湯のすぐ近くのアパートに住んでいた。当時のアパートは風呂なしだった。やなぎ湯にもきつと通っていたと思う」とのこと。また「今は娘夫婦が近所でイタリアンレストランを経営しているので、小学1年生の孫と一緒にやなぎ湯に通っている。炭酸泉の温度が低いので、孫もゆっくりと湯船に浸かっている。銭湯での近所付き合いも楽しんでいる。もちろん風呂上がりには、私は生ビール、孫はジュースをいただき、フロントでまったりさせてもらっている」と楽しそうに語っていた。

また、ある男性3人組は風呂上がりによく近くの居酒屋などに通っているとか。聞けば、そのうちの2人は昔馴染みだが、1人は銭湯で知り合った仲間とのこと。「いつの間にか仲良くなって、風呂上がり飲みに行くのが定番になった」という。まさに「裸の付き合い」がなせる業かもしれない。

かつてのやなぎ湯界隈の話題になると「以前はこの界隈にも『地藏湯』をはじめ、いろんな銭湯があったけど、今はやなぎ湯しか残っていない。それだけに、やなぎ湯の存在は非常にありがたい」とやなぎ湯の周囲は今も昔も住宅地だが、少し歩いたところにある東十条商店街には今以上にいろんな店があった。王子映画劇場もあったし、皆がヘビ屋と呼んでいた漢方店(ヘビがディスプレイされていた)などもあった」といった声が上がった。

今回もやなぎ湯ならではのエピソードが多数飛び交った。次回も参加者とともに、多くの記憶を集めていきたい。



遊ばせ湯に
遊ばせ湯に

COMMENT

坂本寧也さん(やなぎ湯4代目店主)
両親は忙しかったですが、それでも年に一度は家族旅行に出かけていました。伊豆諸島でダイビングにハマリ、以降、いろんなダイビングスポットに出かけられたのは良い思い出です。

私は無類の銭湯・サウナ好きで、学生時代からあちこちに出かけています。やはり「やなぎ湯が一番」と自負していますが、良いところはいろいろあるんですが、なかでも推したいのが2022年にリニューアルしたサウナです。オートロウリュを取り入れたところ、他にはない強烈な温度が深めの水風呂(水深90cm)とともに、サウナファンの間で話題になりました。これからは「ないものをつくる」という父の思いを大切にしながら、銭湯やサウナの素晴らしさを伝えていきたいと思っています。

わたしのせんとうとまち

北区の記憶あつめVol.18 やなぎ湯

苦勞の中にも楽しさがある
銭湯経営の醍醐味

坂本寧也さん(やなぎ湯3代目店主)

宮造り建築だった頃は、私の幼稚園時代のたまり場で、友だちとよくかくれんぼをしていました。番台に隠れて10円を見つけて鉛を買いに行ったり、ロッカーの中に隠れてカギを閉められてしまったりと、いろんな思い出があります。息子が小さい頃はまだ宮造り建築で、当時はほとんど面倒を見ることのできず、目を離した隙に池に落ちて、焦ったこともありました。銭湯の仕事は奥深く、私自身、まだまだ未熟な部分があるんですが、これからも息子の仕事をサポートしていきたいと思っています。

活動支援の協賛・寄付を
募集しています
https://bio.site/sentotomachi



発行: 一般社団法人 せんとうとまち

制作統括: 一般社団法人 せんとうとまち 栗生はるか 事務局: 渡邊勢士 編集・執筆: 熊本鷹一 グラフィック: 株式会社 PIN DESIGN 菅原悠介/岡本茉莉 映像: Keystone film 鶴若仰太 協力: 東京都北区浴場組合 北区政策提案協働事業「銭湯を核とした多世代間の地域コミュニティ再生と記憶アーカイブによる歴史的・文化的まちづくり」(担当: 北区政策経営部シティプランニング戦略課)にて制作。 一般社団法人せんとうとまちは、銭湯とその周辺のまちを共に考え、関係性を編み直しながら、銭湯をめぐる生活文化を再生・活性化していくことを目指しています。